

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2690300021
法人名	株式会社 メディカジャパン
事業所名	京都壬生ケアセンターそよ風
所在地	京都府京都市中京区壬生天池町24 (電話) 075-803-1590

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年4月9日
評価確定日	平成21年5月23日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 3 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 12 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 15.95 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 30,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	166 円
	または1日当たり 1,666 円			

(4) 利用者の概要(3 月 3 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 梶並医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社メデカジャパンが運営する医療、福祉等、様々な分野で全国各地に幅広く展開する中のグループホームの1つです。JR二条駅に、ほど近く閑静な住宅地に位置し、ホーム1階に支援センターとデイサービスセンターが併設されています。生活空間は広々とゆったりと安心して過ごせる設備が整っています。職員は利用者一人ひとりの生活のペースを大切にされ、自由に過ごしていただけるように支援したり、家族から情報をもらい趣味のお茶やお花、書道などをレクリエーションに取り入れるなどの取り組みもしています。また、管理者を始め職員は話し合いを重ね、協力しながら、より良いケアになるように前向きに取り組まれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を活かして、自ら改善点を把握する機会になり、改善計画を立てて地域に向けて関わりを持つよう取り組みを始めています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員に白紙の評価用紙を配り、記入してもらい、管理者、ユニットリーダーが集約し、会議で話し合い作成しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、自治会連合会会長、地域包括支援センター職員、管理者をメンバーとし、2ヶ月に1度、運営推進会議を開催しています。利用者の状況報告、行事報告、事故報告等の様々なサービスの取り組み内容の経過や課題を話し合い、意見や要望をサービスの向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にも苦情相談窓口を明記し、入居時に説明しています。家族の来訪の際にはコミュニケーションを図り、意見や要望、苦情等に対応しています。また、家族にアンケートを採り、職員間で話し合い、結果をサービスの向上の改善に向けて反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に入り、自治会連合会会長より、情報をもって地域交流に参加する努力をしています。老人会やお誘いのあった行事にも参加しています。また、グループホームの行事に使う餅つき器を町内会より貸し出してもらったり、散歩時にも近隣の方と挨拶をするなどの交流があります。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢化社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます」という法人の基本理念が掲げられていますが、ホーム独自の理念や地域密着型サービスとしての理念が明確ではありません。今後、ホームとしての理念も作っていきたいと考えています。	○	地域密着型サービスのホームとして、住み慣れた地域で暮らしていくことや、役割を職員間で共有し、何が大切か話し合い、ホーム独自の理念を作り上げ、見えやすい玄関やユニット入り口に掲げられることによって利用者、家族、地域の方々にとって頂ききっかけになるのではないのでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人基本理念について全体会議でその意味を考え、管理者と職員間で立ち戻り職員全員で共有しています。日々、確認する上で毎朝礼時に唱和したり、職員の介護手帳にも載せ常に意識しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、自治会連合会会長より情報をもらって地域交流に参加する努力をしています。行事や老人会に参加しています。また、グループホームの行事に使う餅つき器を町内会より貸し出してもらったり、散歩時には近隣の方と挨拶をするなどの交流があります。	○	更に、地域の一員として住民や老人会等関わりを持ちたいと考えています。その意向を伝える機会を作ったり、グループホームを理解して貰うためにも、専門的な分野からの講習会や行事の参加を地域に向けて呼びかけてみてはいかがでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員に白紙の評価用紙を配り、記入してもらい、管理者とユニットリーダーが集約し、会議で話し合い作成しています。前回の外部評価を活かして、自ら改善点を把握する機会になり、改善計画を立てて、地域に向けて関わりを持つよう取り組みを始めています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会連合会会長、地域包括支援センター職員、管理者をメンバーとし、2ヶ月に1度、運営推進会議を開催しています。利用者の状況報告、行事報告、事故報告等の様々なサービスの取り組み内容の経過や課題を話し合い意見や要望をサービスの向上に活かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所へ議事録や事故報告書持って行った際やグループホーム協議会に参加し、市の情報や相談を得たりしています。介護相談員の研修に参加して話し合いを持ったこともあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪の際や電話で暮らしぶりの現状報告をして、積極的にコミュニケーションを図っています。毎月デイサービスと協同で行事報告等写真入りの便りを作成し郵送しています。家族の希望に添って来所時に金銭台帳に確認の署名をもらい領収書を渡しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にも苦情相談窓口を明記し、入居時に説明しています。家族が来訪の際にコミュニケーションを図り、意見や要望、苦情等に対応しています。また、家族にアンケートを取り、職員間で話し合い、結果をサービスの改善に向けて反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は必要最小限に抑えるよう努力しています。退職者が多く見られましたが、管理者は職員の希望を取り入れたり、声かけをしながら気を配り、離職のない様努め、少しずつ定着してきています。職員の交代の際には、利用者がダメージを受けていないかを観るとともに、なじみの関係の築いている職員でフォローしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修を受ける機会を設け、仕事をしながら研修に参加できる体制が作られています。ホーム内でも勉強会があり、伝達研修や報告書を回覧して職員間で共有しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回グループホーム協議会に参加し、勉強会や意見交換などを行ないネットワーク作りをしています。意見交換会に職員に出てもらったり、交換研修を行ったこともあり、同じ悩みを共有したり、職員同士の情報交換ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に見学に来てもらい、お茶やおやつを飲んだり食べながら雰囲気を見てもらっています。家に訪問をし環境や生活歴を聞き入居に向けて準備をしています。入居後は、一人ひとりにあった支援を大切に、馴染めるまでの間は職員が個々に寄り添いながら支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護するという感覚でなく共に生活するという気持ちで接し、調理方法を聞いたり、生活歴を活かしたお茶やお花の作法を教えてもらったりしています。テレビドラマで泣いたり笑ったりしながら利用者と職員が喜怒哀楽を共有しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活の中で一人ひとりの思いを聞き取れるようコミュニケーションを図り思いや希望を把握し、業務日誌に些細な事でも表情まで記録し職員間で共有しています。困難な利用者の思いも仕草や家族からの情報の中から汲み取っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思いや希望を来所時や電話で聞き取っています。職員の気づき等を基に活用し始めたセンター方式を用いてまとめ、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成しています。業務日誌には、より細かく具体的に記載され、計画作成に役立てています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は3ヶ月ごとに、利用者や家族、必要に応じて医師等の意見を聞き、カンファレンスを開いて見直ししており、ケース記録を基にモニタリング、評価をしています。利用者の状態に変化が見られる場合には、その都度見直しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの希望に添って理美容や外食に出かけたり、家族の希望で病院に同行しています。また、希望によっては鍼灸整復師に来院してもらう等柔軟な支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決定は、利用者や家族一人ひとりの希望を聞き、個々に添った支援をしています。提携医は2週間に1回、定期往診があり、24時間の連絡体制が構築され、緊急時にはいつでも連絡可能な体制となっています。また、週一回歯科医の往診があり、口腔ケアもしてもらっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者、家族に終末期のあり方を聞き、ホーム独自の重度化した場合における対応や看取り指針を説明し同意を得ています。また、重度化した場合には、家族の意向を確認し、家族や医師、看護師、職員間で話し合い方針を共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である尊敬の念で接することに努めています。言葉遣い等が気になった際にはその都度注意を促しています。個人情報の記録物については、各ユニットのキャビネットの中に適切に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望にあったその人らしい自由な暮らしを大切に支援しています。起床時間も就寝時間も自由で、好きな場所で好きな時間に過ごしてもらっています。利用者家族の希望を取り入れて、役割分担を決めたりしての働きかけしながら、無理強いせず一人ひとりのペース合った支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛りつけ、配膳、片付け、食器拭き等できることを活かし、利用者に手伝ってもらっています。職員も一緒に食卓に着いて楽しく会話をしながら食事をしています。月に1回外食をし、一人ひとりの好みに応じて楽しみの支援もしています。嗜好も取り入れビールを飲んでいる方もいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回午後より6時の間でも入ってもらっていますが、利用者の希望に添って、ゆったりと入浴をしてもらえるように心がけています。体調や状況に応じては清拭に変えたり、時間や職員を変えてみたりして、タイミングを図って入浴してもらっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かし、レクリエーションの中に習字やお茶やお花を取り入れたり、掃除や洗濯干し、お花や観葉植物の水やりを役割としています。買い物や花見、植物園にでかける楽しみの支援もしています。希望があり映画村への外出も予定しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には一人ひとりの希望に添って公園や近隣に散歩に出かける支援をしています。洗濯干しや取り入れにも気分転換を図ってもらう支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やユニット出口が死角になっている設備上のこともあり、安全面を考慮しドアは自動ロックシステムとなっており、家族には説明をしています。ユニット間の扉は開放されて行き来ができ、利用者の希望によっては職員が付き添って外出しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立ち会いのもと昼夜想定で避難訓練をしています。また、防災担当者が点検もしています。地域での消防団組織に協定が組まれていて避難場所となっています。近隣の消火栓がある箇所を確認しています。	○	ホームが開設した当初、地域での消防団組織に協定が組まれていますが、以降協定の再確認は行われておらず、内容が浸透しているかが不明瞭です。運営推進会議に働きかけて、協定の再確認や地域と合同の避難訓練、救命救急講習等、消防署の協力を得て取り組まれてみてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立表を基に利用者の希望を取り入れたり、食材を見て量や栄養のバランスに考慮しています。また、医師の指示や健康状態、身体状況によっては粥、刻み、とろみ、ミキサー食等で一人ひとりに合わせた対応をしています。食事、水分摂取量を記録し把握しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓からの採光を取り入れたり、季節毎に応じた飾りをしています。落ち着いた応接セットが置かれ、一人ひとりが好きな場所で自由にゆったりと過ごされています。また、利用者が育てられた観葉植物を見ながら日当たりの良いところで一人になれる場所があります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら自宅で使い慣れた家具、ダンス、鏡台、テーブル、イス、テレビ、仏壇や個々にあったベット、畳、じゅうたん等を持ち込まれ、配置を考えながら、その人らしい居心地の良い居室作りに配慮しています。なかには、趣味の書道の作品を壁に飾られていたり、ひ孫のプレゼントの作品が飾られています。		